

新庄市立小・中一貫教育校基本計画

～地域を支える人材の育成をめざして～



平成24年3月

新庄市教育委員会

《目次》

I	はじめに	1
II	小・中一貫教育校設置に当たっての基本的な考え方	
1	新庄市の学校教育の現状と小中一貫教育のあゆみ	3
2	小・中一貫教育校にかかわる検討経過	8
3	小・中一貫教育校設置の意義	9
4	新庄市の小中一貫教育の方向性	11
III	小・中一貫教育校整備の対象校	
1	対象校の現況	13
2	対象校における児童生徒の課題	17
IV	小・中一貫教育校設置に関わる基本的な事項	
1	設置の基本的な枠組み	
V	めざす小・中一貫教育校	
1	教育目標	20
2	めざす児童生徒像	22
3	めざす学校像	24
4	教育課程の特色	25
VI	小・中一貫教育校の施設整備	
1	学校施設の整備方針	37
2	整備計画及び事業費等	38
VII	開校までのスケジュール	43
	(資料編)	
1	学校施設設備資料	44
2	学校施設の整備に関する基準について	45
3	新庄市立小・中一貫教育校基本計画策定委員会等	46
4	萩野地区小・中一貫教育校基本設計（抜粋）	59

I はじめに

今、本市の学校教育をとりまく環境が大きく変わりつつあります。情報化や国際化の急激な進展、三世代家族が中心であった家族構成の核家族化や急激な人口減少、少子高齢化の進行、それにともなう家庭・地域の教育力の低下など、教育をめぐる状況は大きく変化し、様々な課題が生じています。

このような状況下で子どもたちの中に、学習意欲の低下や家庭での生活習慣や学習習慣の未定着、地域社会での体験不足による集団生活への不適應や不登校等さまざまな課題が浮き彫りになってきました。これまでの学校教育の仕組みの中では、スムーズな対応が困難な状況も生まれてきています。

国においても、このような状況を教育制度の課題ととらえ、平成17年10月の中央教育審議会の答申『新しい時代の義務教育を創造する』においては、義務教育制度の見直しについての記述がみられるようになりました。

この中では、「義務教育を中心とする学校種間の連携・接続の在り方に大きな課題があることがかねてから指摘されている。」「学校の楽しさや教科の好き嫌いなどについて、従来から言われている中学校1年生時点の他に、小学校5年生時点で変化が見られ、小学校の4～5年生段階で発達上の段差があることがうかがわれる。」などが指摘されています。さらに、「設置者の判断で9年制の義務教育学校を設置することの可能性やカリキュラム区分の弾力化など、学校種間の連携・接続を改善するための仕組みについて種々の観点に配慮しつつ十分に検討する必要がある。」との見解も示されています。

平成18年10月、約60年ぶりに教育基本法が改正され、新しい時代の教育の基本理念が明示されました。この中では、新たに義務教育の目的が規定されるとともに、学校教育については、「教育を受ける者の心身の発達に応じて体系的な教育が組織的に行われなければならない」ことが規定されました。また、学校教育法の改正では、新たに義務教育9年間の目標が規定されました。

教育基本法第16条では、地域の実情に応じた教育に関する施策の策定と実施を内容とした地方公共団体の役割が規定されるとともに、同法第17条に基づき国が策定した教育振興基本計画では、総合的な学力向上策として、6・3制の弾力化に関し、小中一貫教育を含め、各学校間の円滑な連携・接続等の取り組みについて検討することとしています。

社会の変化にともなない子どもたちに多様な課題が出現する中、新庄市教育委員会では、平成17年3月に策定した「いのち輝く新庄 もみの木教育プラン」に基づき、平成18年度より、5中学校区毎に小中連携・一貫教育の特色ある実践をすすめてきました。

各中学校区の実践を通して、学校教育の様々な課題を解決するためには、学力向上、生徒指導の充実、「ふるさと学習」の充実、小中教職員の協働の視点から、小学校と中学校がより密接で連続した教育環境をつくることが急

務であると考え、小中連携をさらに進化させた小中一貫教育を導入することが適切であるとの結論に至りました。加えて、幼稚園、保育所、小学校の接続も重視することで、幼稚園・保育所から小学校、小学校から中学校へのスムーズな移行が図られ、「小1プロブレム」、「中1ギャップ」等の学校間の接続問題も解消され、児童生徒が心身ともに健やかに成長していくことが期待されます。

さらに、平成21年8月萩野中学校区からの「施設一体型小・中一貫教育校」設置の要望書の提出を受け、新庄市の教育の在り方についての総合的な構想が必要との結論に至り、基本となる考え方として平成22年3月に「新庄市小中一貫教育基本方針 いのち輝くたくましい新庄っ子をはぐくむために」をまとめることができました。

その後、平成22年5月、新庄市教育委員会に「新庄市立小・中一貫教育校基本計画策定委員会」を設置し、学識経験者・学校関係者・保護者・地域代表などの方々に、新庄市における小中一貫教育の推進の核となる「施設一体型小中一貫教育校」の在り方について検討をいただき、ここに2カ年の議論のまとめとして、「新庄市立小・中一貫教育校基本計画」をまとめさせていただきました。

ここに来て、小中一貫教育の全国的な拡大の流れを受けて、国の中央教育審議会初等中等教育分科会においても、小中一貫教育及び小中一貫教育校制度の基本的な方向性について、学制、教育課程、財政措置、教科担任制等の在り方などを検討課題として取り上げる動きも起こっています。まさに新庄市の取り組みを追認した動きといえます。

この基本計画を、新庄市の子どもたちの健やかな成長のために、学校、家庭、地域が一体となった小中一貫教育の推進を図るための道しるべにしたいと考えています。



運動会団体種目ダンスバトル



小中交流外国語活動